

### 【目次】

1. 特色ある京都学専攻の授業
2. 地域アドバイザー企画の行事
3. 立命館京都学研究会
4. 基礎講読合同授業

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: aso0605@fkc.ritsumei.ac.jp)

立命館大学文学部京都学専攻 facebook

<https://www.facebook.com/ritsu.kyotogaku/>

## 1. 特色ある京都学専攻の授業

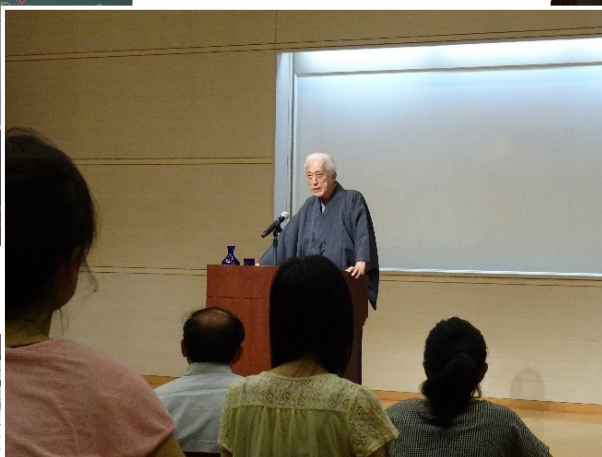
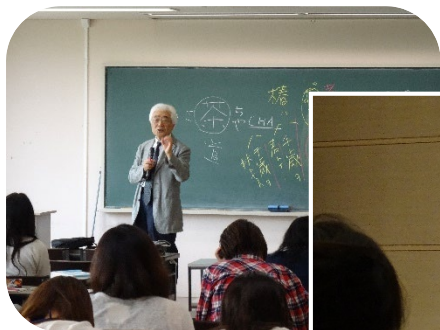
京都学専攻では京都ならではの特色ある授業を行っています。今回は各授業のシラバスとともに実際の授業風景の写真をご覧下さい。

茶道文化演習(担当:千玄室 先生)

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言えよう。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

(シラバスより)



千玄室 先生



華道文化演習(担当:池坊専好 先生)

いけばな文化は室町期、日本伝統の神の依代文化・照葉樹林文化とそれを削ぎ落とした枯枝にも生命の営みがあり、飛花落葉にこそ悟りの糧があるとの哲学で飛躍的に発展し今日に至っている。現代に伝わる日本文化の原型が室町期に形成されたという点に鑑みても、その代表事例のひとつであるいけばな文化の歴史を紐解き、成立と後代の発展の過程を追うと同時に、今日伝わるいけばなの実践を通じて、そこに含まれる精神構造の究明を志すことは、今後国際社会の一員として自身の文化を省みる、その位置を客観的に再確認することにもつながるものと考えられる。その点で本講義は、「国際的教養科目」と位置づけられるものであり、この認識に則って、講義と実習を組み合わせた授業を展開する。(シラバスより)



池坊 雅史 先生

京都学フィールドワークⅣ・Ⅴ(LA)(担当:田中聡 先生)

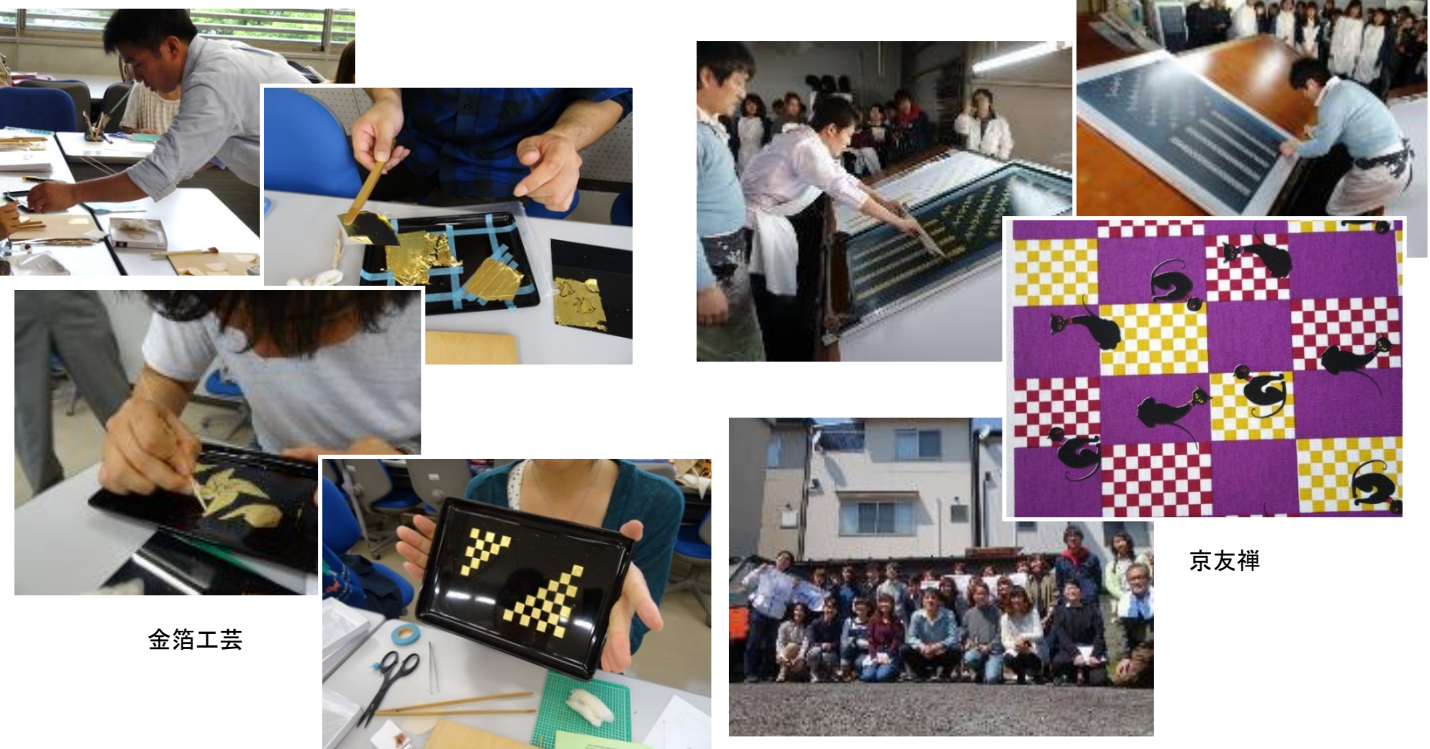
この授業では、京都府立山城郷土資料館(ふるさとミュージアム山城)および長江家住宅(京都市指定有形文化財)のうちいずれか1カ所を研修先とし、歴史資料の収蔵・調査・整理・公開の基礎について実地で学びます。

- ①山城郷土資料館は、南山城の歴史資料や考古資料、民俗資料などを多数所蔵し、その管理を行うとともに、一般市民や研究者の利用に供し、また資料の価値について広く知ってもらうためにさまざまな普及活動を行っています。学芸員が通常行っている活動の一端を実際に体験し、所蔵資料の活用について学びます。大学内における通常授業のほか、秋には資料館において1週間程度の研修を行う予定です。
- ②長江家住宅(京都市指定有形文化財)は、1822年以来、呉服卸商を営んで来た家で、現在はその一部を公開し、職住一体の典型的な京町家の佇まいを今に伝えています。この研修では、住宅内の調度品や資料等の整理、7月14~16日に行われる「屏風祭」特別公開の手伝いなどを通して、伝統的な京町家についての理解を深め、保存や公開について実地で考えます。(シラバスより)



京都の伝統工芸を伝える職人さんたちから伝統工芸の現状について報告して頂き、可能な範囲で製作体験を行う。伝統を伝える職人さんたちの様々な苦労や思いについても伺いながら、「伝統を伝える」ために、どのような工夫がされているのか、職人さんの目から職人さんたちを取り囲む社会の有り様について、職人さん達と対話しながら考える。伝統工芸の種類については変更される可能性があるが、竹工芸・京水引・表装・人形・金属工芸・染色工芸・金箔などを予定している。それぞれ1~2回の授業で講義・製作体験の指導を受けるとともに、あらかじめ担当者を決めて、聞き取り調査を行う。

そして、職人さんへのインタビュー内容をもとに伝統を伝えるための工夫についてレポートを作成し、それを編集して和綴じ本として刊行する。なお、土日などを利用して直接、工房見学・インタビューを行なう場合がある。(シラバスより)



金箔工芸

京友禅

## 2.地域アドバイザー企画の行事

2016年7月3日(日)に地域アドバイザーボランティアによるフィールドワークが行われ、京都学専攻教員6名、地域アドバイザーボランティア5名、大学院生1名、京都学専攻の学生3名が参加しました。当日は地域アドバイザーの細田茂樹さんがご自身の研究テーマである嵐山の戸無瀬の滝について現地で解説していただきました。

14:00に京福電鉄嵐山駅に集合で、最初は蒸し暑かったのですが、フィールドワークが終わる16:00頃には涼しい風に吹かれながら、戸無瀬の滝の前で記念撮影をしました。



### 3.立命館京都学研究会

京都学専攻では「京都」を軸に文学・歴史学・地理学をはじめ様々な分野から教育・研究・地域連携などの活動が盛んに進められています。

2014年に始まった研究会も今年で3年目になります。今年は前期に河角先生・田口先生のご発表が行われました。

後期第1回目は10月28日(金)にドキュメンタリー映画「千年の一滴」の上映会を平井嘉一郎記念図書館1階のシアタールームで行ないました(写真①)

後期2回目は11月18日(金)に「洛北深泥池の節分行事」というタイトルで本学文学部非常勤講師の三浦俊介先生にご発表頂きました(写真②)。

後期第3回目は12月16日(金)18時から本学大学院文学研究科地理学専修M1の大島明さんに「京都への視点—『常(つね)のまぢ』を撮る—」というタイトルでご発表いただきます。立命館京都学研究会はオープンな会ですので、どなたでもお越しいただけます。ぜひふるってご参加いただけますと幸いです。



写真①



写真②

### 4.基礎講読合同授業

京都学専攻では毎年11月頃に2回生の小集団科目「基礎講読」の合同授業を行っています。今年は11月19日(土)に行われ、その中では、本紙1~3ページでも紹介した様々な授業を受講した先輩たちによるプレゼン発表が行われ、授業の魅力やおもしろさを工夫をこらしながら2回生の皆さんに伝えてくれました。

